

死にたい絶望から生きたい
希望へと 絶望を癒す祈り
旧約聖書アポクリファ ト
ビト記より

小泉友美 KOIZUMI
Tomomi



目次

死にたい絶望から生きたい希望へと 絶望を癒す祈り 旧約聖書アポクリ ファ トビト記より	1
--	---

死にたい絶望から生きたい希望へと 絶望を癒す祈り 旧約聖書アポクリファ トビト記より

死にたい絶望から生きたい希望へと 絶望を癒す祈り 旧約聖書 アポクリファ トビト記より

旧約聖書外典(アポクリファ)内のトビト記は絶望の祈りと、神に救われた事による感謝の賛美の歌で綴られています。自死を願い、絶望の内にある救いの祈りとは何か、トビト記から考えてみたいです。

トビト記は、おそらく紀元前二世紀頃に書かれた、旧約聖書続編・外典(アポクリファ)13書の中の第二聖典の中の一作です。トビト記の主題は、神の摂理的な守護です。

トビト記は、捕囚の地に生きたトビトの物語であり、アッシリアの捕囚人としてニネベ(古代メソポタミアの北部のアッシリアの都市、現代のイラク北部の都市モスル)に暮らすトビトは、心から自分の信仰する神を信じて、自分の国王シャルマナサル王に仕えて、慈善の業を行いました。飢えた人々に食べ物を与え、裸の人々には着物を着せ、また死体が町の城外に放置されているのを見れば埋葬しました。

トビト記の初めは、死の色が非常に濃く感じさせます。

トビトは、ニネベの町の城外に放置されている死体を見る度に、町民から咎められても(死体は穢れ)自分自身の手でこっそりと埋葬しました。

(トビト記1章16節、1章18節、2章2節)

トビトは家の中庭に行き、その塀の傍らで眠っていると、暑かったので顔には何の覆いも掛けておらず、雀の糞が両眼に落ちて、それが元で、目に白い膜が出来てしまいました。この白い膜の為にトビトの両眼は失明してしまいました。

四年間、失明の状態が続きました。

トビトの失明と、子山羊をめぐる妻との口論の果て、妻から"あなたの憐れみは何処へ行ったのですか。何処にあなたの正義はあるのですか。あなたはそういう人なのです。"(トビト記2章14節)となじられて、トビトは心に深い悲しみを覚えて、死を願い、涙を流しました。

そして、呻きながら祈り始めました。

"私は御前に罪を犯し、

あなたの掟に従わなかったのです。

それゆえ、あなたは私達を、

あらゆる国民の中に散らし、
 そこで略奪、捕囚、死を経験させ (...)
 今こそ、御心のままに私を裁き、
 私の魂を取り去り、
 私が地上から解き放され、土に戻るようになしてください。
 何故なら、私は生きるよりも死んだ方が良いのです。

(...)

私は大いなる悲しみに包まれています。主よ、どうぞ、私をこの苦しみから解き放され、土に戻るようになしてください。何故なら、私は生きるよりも死んだ方が良いのです。

(...)

私は大いなる悲しみに包まれています。主よ、どうぞ、私をこの苦しみから解き放ち、永遠の住まいへ行かせてください。主よ、あなたの御顔を私から背けないでください。何故なら、死んで辱めを耳にする事の無い方が、生きて大きな苦しみに遭うよりもましなのです。"

(トビトの祈り 3章1節から5節)

このトビトの悲嘆の祈りと同じ日に、メディアのエクバタナに住むトビトの息子トビアの将来の嫁となるラグエルの娘サラも、七人の男に嫁いたが、そのつど悪魔アスマダイに婚約者が殺されました。そして、自分の女奴隷になじられて、サラは心に深い悲しみを覚えて、父の家の二階に上がり、首をくくって自殺しようとしてしました。絶望の内に、サラは両手を広げて窓の方に差し伸べて、神に祈りました。

" 憐れみ深い神よ

あなたとあなたの御名を永遠に褒め讃えます。あなたに造られた万物が永久にあなたを褒め讃えますように。

(...)

既に私の七人の夫も死んでしまいました。私がこれ以上生き永らえて、何になりましょう。しかし、もし私の命を奪う事をお望みにならないのならば、主よ、今私に向けられている辱めの言葉をお気かせください。"

(サラの祈り トビト記3章11節から15節)

トビトの祈りは、ひたすら自分の悲嘆に満たされており、神に願って死なせてもらう様にと願っていますが、サラの祈りは自殺をしようとする絶望の中、神への賛美の心を忘れませんでした。

そして、この2人の場所は異なれど、祈りは神に聞き入れられました。

神は2人の傷ついた心を癒す為に、神の使者である大天使ラファエルを送りました。この2人の祈りが聞き入れられた時、老トビトは中庭から家へと戻り、サラは父の家の二階から降りて来ました。老トビトの場合は、自分の目で神の栄光を見られる様に、サラの場合は老トビトの息子トビアの妻となる事でした。

このトビト記には、老いたトビトとサラがお互いに死を願った故の絶望の祈りと、信仰によって神に救われた事による感謝の、賛美の歌があります。特に、トビトの息子トビアと自殺未遂をしようとするくらい絶望していたサラを、神の命によって結びつけた大天使ラファエルへの祈りはトビト記の中で重要視されています。

大天使ラファエルの絶望の時にある救いの霊的アドバイスは、こうあります。

" いつも神を褒め讃えていなさい。

神があなた方の為にしてくださった数々の恵みをすべての人々に告げて感謝し、人々が神の御名を褒め讃え、賛美の歌を歌う様にしなさい。

(...)

善い業に励みなさい。

そうすれば災いに遭う事はありません。真実をもって祈りを捧げ、正義をもって慈善の業をする方が、不正を行なって金持ちとなるよりも、良い事です。

(...)

慈善を行なう者は、幸せな人生を送る事が出来ます。

罪を犯し、不正を行う者は、自分自身を不幸にするのです。

あなたが食事にも手をつけないで、ためらわずに出て行き、死者を手厚く葬った時、私は試みる為にあなたの元に遣われて来たのだ。 "

とあり、絶望にあっても、常に神への祈りを忘れずに、神を讃えて、困っている弱い人々を励ませば、神の恵みによって、死と苦しみから、いずれ解放されると言います。

それが、信仰と宗教のあり方と思います。

" 神は鞭打つ。

しかしまた憐れまれる。

地の底、隠府に連れて行く。

しかしまた大いなる滅びより導き出される。 "

2026年4月10日 フランス・アンジェ 平和 祈

死にたい絶望から生きたい希望へと 絶望を癒す祈り 旧約聖書アポクリファ トビト記より

著者 小泉友美 Koizumi Tomomi

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
